

名古屋大学大学院国際言語文化研究科日本語文化専攻

第  
1  
部

# 春季実習報告書

鷺見 幸美（編）

2010年2月15日(月) ~ 25日(木)

実習生

今澤 ひろ子

入江 友理

姜 京男

小山 友里江

塩瀬 博子

高木 都

ミースワソ モンシチャー

ティーチング・アシスタント

石黒 利江子

國澤 里美

田中 典子

大和 祐子

## 目次

1	実習概要.....	3
2	実習内容.....	6
3	授業報告.....	8
4	実習振り返りレポート	
4.1	実習生レポート.....	42
4.2	ティーチング・アシスタント (TA) レポート.....	48

## 1 実習概要

本節では、春季実習の目的、コースの概要、実習参加者（実習生、ティーチング・アシスタント（以下TA）、学習者）について述べる。

春季実習の目的は、大きく2つある。第一には、参加者一人一人が、これまでの学びを実践し、自らの課題と日本語教育に取り組む意思と覚悟を明確にすることである。実践してみてわかること、経験しなければわからないことは、山ほどある。計画通りに進まない授業、学習者からの思いがけない質問を体験してこそ、次の成長がある。また、実践してこそ味わうことのできる面白さもある。その面白さがあるからこそ、より高い目標が持てる。第二には、協働することにより、互いに学び合うことである。互いに授業を見学し、相互にコメントし合うことにより、得られるものは大きい。自分、自分の授業との違いの発見は、考えるチャンスになる。見学する側、コメントされる側だけでなく、見学される側、コメントする側にとっても、貴重な機会である。他者の授業を客観的に観察することは、自分の授業を客観的に捉えることにつながる。

この目的のもと、以下のコースを開設し、実習生7名、TA4名で実習を行った。

期間：2010年2月15日（月）～2月25日（木）

時間：9：00～14：30

教室：名古屋大学文系総合館609

（17日（水）、18日（木）は教養養育院北棟211）

教科書：*A Course in Modern Japanese, [Revised edition] Vol.2*

対象者：名古屋大学留学生センター初級日本語特別プログラム在籍者

目的：大学院生として生活する上で必要な口頭コミュニケーション能力を養う。

実習生7名（うち留学生2名）

今澤ひろ子、入江友理姜京男（韓国）、小山友里江、塩瀬博子、高木都、  
ミースワンモンシチャー（タイ）

TA4名

石黒利江子、國澤里美、田中典子、大和祐子

実習生7名のうち6名は、国際言語文化研究科日本語文化専攻博士前期課

程1年の学生、1名は国際開発研究科後期課程国際コミュニケーション専攻1年の学生である<sup>1</sup>。春季実習は、2010年度開講の「日本語教授法及び実習」の一環であり、4月に授業が開始される前に前倒しして行われる。なお、実習参加を含む「日本語教授法及び実習」の履修には、前年度の「日本語教授法概論」の履修が条件として課されている。

TAは、過去に本研究科での教育実習を経験し、その後国内外で日本語教育の経験を積んでいる国際言語文化研究科博士後期課程の学生である。

学習者の募集については、留学生センター鹿島央教授にご協力いただいた。対象となる学習者にコースの説明をし、参加希望を募ってくださった結果、参加者は以下のようになった。

登録学習者：15名

(インド1名、ウズベキスタン2名、エジプト1名、カンボジア2名、ギニア1名、フィリピン2名、ベネズエラ1名、メキシコ1名、ラオス4名)

参加学習者：11名

(インド1名、ウズベキスタン1名、エジプト1名、カンボジア2名、ギニア1名、フィリピン1名、ベネズエラ1名、メキシコ1名、ラオス2名)

初日の参加者は10名であったが、早い段階で6名に定着し、最終日は5名の参加となった。そのうち、1名は期間を通して毎日参加してくださった。5名が参加を途中で辞めてしまった理由は把握できていないが、定着した6名はみなさんとても熱心で、積極的に、協力的に授業に参加してくださった。

(鷺見 幸美)

---

<sup>1</sup> 春季実習実施時(2010年2月)の学年。夏季実習実施時(2010年8月)、実習報告作成時(2011年2月)には、国際言語文化研究科所属の6名が博士前期課程2年に、国際言語文化研究科の2名は、夏季実習には参加していない。

## 2 実習内容

本節では、春季実習の内容について、全体のスケジュール、実習生の実習内容、TAの役割の順で述べる。

春季実習では、TA 1名と実習生 1～2名が一つのチームとなり、一つの課を担当した。チームは、実習指導教員である鷺見が、経験や各人のスケジュールの都合などを考慮して、編成した。各チームが担当する課、その目標についても、鷺見が決定した。時間割は、以下の通りである。

春季日本語コース時間割

		教室	課	目標	1限 9:00- 10:30	2限 10:45- 12:15	3限 13:00- 14:30
1	2.15 (月)	609		オリエンテーション ウォーミングアップ	鷺見		
2	2.16 (火)	609	L. 12	アドバイスをもらうことができる	大和・高木・ミースワ		
3	2.17 (水)	新北 211	L. 13	道を聞いたり、説明したりすることができる	石黒・入江		
4	2.18 (木)	新北 211	L. 14	断ったり、謝ったりすることができる	田中・塩瀬・今澤		
5	2.19 (金)	609	L. 15	簡単なスピーチをすることができる	國澤・小山・姜		
6	2.22 (月)	609	L. 16	改まり度の高い会話に参加することができる	大和・高木・ミースワ		
7	2.23 (火)	609	L. 17	依頼したり、招待したりすることができる	石黒・入江		
8	2.24 (水)	609	L. 18	店や会社に問い合わせる情報を得ることができる	田中・塩瀬・今澤		
9	2.25 (木)	609	L. 20	簡単なディスカッションができる	國澤・小山・姜		

実習生が、自分の担当部分だけを考えて教壇に立つことのないよう、各課の学習内容の決定は、各チームに任せた。目標を実現させるために、何を学習項目とし、どのように進めるかを考え、一日の計画を立てることも実習の一環である。TAを含めたチームでの計画立案が、この春季実習のスタートとなる。

実習生は、一日3時限の授業のうち、45分を担当することとした。春季実習を通して、90分教壇に立ったことになる。また、他の実習生、TAの授業を積極的に見学するよう促した。

TAには、以下の役割を担ってもらった。

- 1) 各課の授業計画立案のリード
- 2) 実習生が担当する部分以外の授業の担当
- 3) 教案作成相談
- 4) 模擬授業の指導
- 5) 授業後のコメント
- 6) 見学の受け入れ
- 7) 授業時間中のフォロー
- 8) 実習生授業のビデオ設置・撮影
- 9) 文具購入等の際の助教への連絡窓口

実習生、TA、鷺見が登録するメーリングリストを立ち上げ、授業をしたその日のうちに、簡潔に授業報告をすることを課した。諸々の連絡も、このメーリングリストで行った。

(鷺見 幸美)

### 3 授業報告

本節は、各授業の内容と反省の報告である。

初日は、鷺見が担当し、オリエンテーション、ウォーミングアップを行った。オリエンテーションでは、このコースが大学院生による日本語教育実習であることを明確にするとともに、「今まで学習したことを総動員して話す練習をし、4月からの研究生生活に備える」ためのコースであり、授業では積極的に話してほしいということ強調した。オリエンテーションに引き続き、「相手の言ったことがわからないときに聞き返しができる」「相手からの質問が理解できる」ことを目指したウォーミングアップを行った。このウォーミングアップは、実習生、TAにも出来る限りの参加を促した。それぞれが学習者の日本語能力や個性を把握し、実習に備えることができると考えたからである。

以下、実習生及びTAが各課の授業報告をする。

#### 第12課 (2010年2月16日)

担当 TA：大和祐子		担当実習生：高木都 ミースワンモンシチャー		
学習目標 アドバイスをもらうことができる、アドバイスをすることができる				
学習項目 形式：「～んですが、どうしたらいいですか」、「～んですが、Question Word+V-たらいいですか」、「～たらいいですよ」、「～たらどうですか」				
	担当	予定時間	実際の時間	内容
1	大和	45	45	アドバイスをもらう表現「～んですが、どうしたらいいですか」の確認と練習。
	ミースワン	45	50	アドバイスをもらう表現「～んですが、Question Word+V-たらいいですか」の練習と活動。



2	高木	45	40	アドバイスをする表現（「～たらいいですよ」「～たらどうですか」）の導入・練習。
	大和	45	50	アドバイスをする表現「～たらいいですよ、～たらどうですか」などを使ったペアワーク。
3	大和	90	90	アドバイスをもらう表現とアドバイスをする表現を使ったタスク。

担当者	大和祐子
目標	アドバイスをもらうための表現およびアドバイスをする表現の適宜使って、アドバイスできるようになる
構成	<p>（1限前半）</p> <p>①ウォーミングアップ：自己紹介，雰囲気作り。</p> <p>②練習1：「…んですが」の導入と練習。</p> <p>③練習2：「…んですが，どうしたらいいですか」のQに対して，「～てください」などの既習表現を用いた練習。</p> <p>（2限後半）</p> <p>①練習1：日本語の教師になって，日本語の学習についてアドバイスする（ペアワーク）。ペアで練習後，クラスで発表。</p> <p>②練習2：医者になって，健康管理についてアドバイスする（ペアワーク）。ペアで練習後，クラスで発表。</p> <p>（3限）</p> <p>①午前に練習した表現の確認。</p> <p>②モデル会話の作成。（一連のアドバイス会話をクラス全員で作成）</p> <p>③タスク1：「今困っていることについて，相互にアドバイスし合う」練習後，発表。</p> <p>④タスク2：「相手の出身地に行くときのアドバイスをし合う」練習後，発表。</p>

反省	<p>コースの前半だったこともあり、まずは雰囲気作りに力を入れた。午前は、学習者、教師側ともに緊張があり、雰囲気も硬かったが、午後にはリラックスした雰囲気の中で授業を進めることができた。クラスの中での習熟度の差が大きいと感じた。今後のクラスでの活動の方法など工夫が必要であると思った。</p> <p>3限のタスクは、時間が足りず、学習者はまだ話したりないようだった。もっとモデル会話の作成の時間を短くすべきだった。</p>
----	---

担当者	高木都
目標	アドバイスをする表現「～たらどうですか」「～たらいいですよ」を使ってアドバイスをすることができる
構成	<p>(2限前半)</p> <p>①導入：教師の自己紹介、教師の悩みについてアドバイスをする(アドバイスのための表現の獲得)</p> <p>②練習1：たら form の練習(動詞のフラッシュカードを用いて、たら form への変換練習)</p> <p>③練習2：教師の悩みに対して、練習した表現を使ってアドバイスする</p> <p>④応用：ビジター(日本人3名：ロールカード(悩みが書かれているカード)を事前に配布)の悩みに対して練習した表現を用いてアドバイスする、アドバイスの内容をクラス全体に向けて報告する</p>
反省	<p>クラスの雰囲気を明るくしようとなるべく導入で緊張がほぐれるような話題を選んだ。そのため最後までクラスの雰囲気をなるべく明るく保つ事ができた。</p> <p>練習の際にはフラッシュカードを用意して、たら form の変換練習を行ったが、指示がきちんと伝わらず、初めは発言しづらそうだった。誰に発言してもらおうのか、近寄ったり、手で示したりして、クラス全体が発言できるように促す必要があった。</p> <p>学習者の発言に対して、間違いや正答であることを確認することなく進めてしまっていた点に関して、各練習の学習目標をきちんと把握し、表現の正しさに注目すべき時、コミュニケーションを重視すべき時を見極める必要があった。</p>

担当者	ミースワン・モンシチャー
目標	アドバイスをもらうための表現「～んですが、Question Word+V-たらいいですか」を使うことができるようになる。
構成	<p>①自己紹介</p> <p>②「～たらいいですか」のタ形の再確認</p> <p>③「何、どこ、どうやって」に「～たらいいですか」をつける練習</p> <p>④「いつ、誰、どう、どんな、どれ、どの、どうやって」に「～たらいいですか」をつける練習</p> <p>⑤相手（日本人）の出身地に旅行に行くときにどうしたらいいかアドバイスをもらう活動（行き方、有名な観光地、ベストシーズン、食べ物、お土産）</p>
反省	<p>①「～たらいいですか」のタ形の確認には、導入がなく、いきなり練習させた。学習者が混乱し、どう答えればいいのか、分からなくなった。</p> <p>⇒ 例や話を使って導入すべきである。</p> <p>②指示に関しては、誰が何をするのか不明瞭だったために、活発な発言や活動を促すことができなかつた場面があった。</p> <p>⇒ 誰が何をするか、明確に指示すべきである。</p> <p>③教材分析や準備が不十分だった。文字カードが多過ぎたので、使う順番も混乱し、使わなかつたものもあつた。また、黒板にどのように貼ればいいのか、分からなくなった。</p> <p>⇒ 必要なだけに文字カードを使つたり、使う順番をちゃんと並べておくべきである。黒板にどのように貼るか、一回練習した方がいい。</p> <p>④単語については、学習者が知らない単語が結構出てきた。（バラ、デジカメ、出身、有名な観光地、お土産、神社など）</p> <p>⇒ 難しい・新しい単語の英語の訳語を準備すべきである。</p>

### 全体の反省

全体の構成と予定の時間配分はこれで良かったと思うが、実際に教えたとき、時間的なことを心配し、練習問題を飛ばしてしまつたこともあつた。必要なだけに無理せずに練習させることと、授業中に時間をコントロールすることが必

要である。

また、クラスの雰囲気に関しては、最初は学習者と教師側に緊張があり、雰囲気が硬かったので、最初から最後まで雰囲気をなるべくリラックスで明るく保ち、授業を進めることが必要である。

最後に、練習の際には、指示がきちんと伝わらなかったために、活発な発言や活動を促すことができなかった場面があった。誰が何をするか、明確に指示すべきである。

### 第13課 (2010年2月17日)

担当 TA：石黒利江子		担当実習生：入江友理		
学習目標				
道を聞いたり、説明したりすることができる				
学習項目				
・「～つ目」				
・「～て、～てください」「～と、～があります」				
・「～はどこですか」「～に行きたいんですけど、どうやって行ったらいいですか」				
「この辺に～ってありますか」				
・「～ですね？」				
	担当	予定時間	実際の時間	内容
1	石黒	90分	90分	・電車の乗り換えを説明する ・屋内の道案内 ・案内を頼りに建物の中の目印を探すタスク
2	入江	45分	45分	・屋外の道案内 ・地図を使ったインフォメーションギャップタスク
	石黒	45分	45分	・目印を利用した屋外の道案内 ・地図を使った道案内のタスク

3	石黒	90分	90分	・グループで実際に外に出て、道を聞いて、目的地へたどり着くタスク
---	----	-----	-----	----------------------------------

担当者	石黒利江子
目標	1限：ホーム／きっぷ売り場／目的地までの行き方を聞く・聞いて理解する 2限（後半）：道や場所を聞く・聞いて理解する 3限：実際に外に出て、通行人に道を聞き、目的地まで行く
構成	1限 I. ウォーミングアップ II. 駅・電車 ①語彙確認（乗る／降りる／～線／ホーム／乗り換えます） ②モデル会話1 提示・復唱 ・て形の確認練習 ・～つ目 ③ペアワーク ・路線図を見て、目的地までの行き方を教え合う ④モデル会話2 提示・復唱 ・語彙確認（きっぷ売り場／右／左／に曲がる／角／を曲がる／階段／まっすぐ／上がる） ・「と」の練習 「～と、～があります」 ⑤モデル会話3 提示・復唱 III. タスク ・学習者は与えられたカードにある目的地への行き方を実習生に聞き、建物内のゴールへ行って付箋を取って帰ってくる。 2限 I. 導入 （前半の続きで、言われた通り目的地に行ったが分からないという設定） ・目的地のそばに何があるか聞く II. 練習 ・語彙確認（店の名前／となり／反対／向こう／渡る／前／後ろ／そば） ・形容詞復習→形容詞＋名詞の接続練習 III. タスク

	<p>学習者には、「知っている場所」と「知りたい場所」が書かれた、異なる情報の入った地図を持たせる。「知りたい場所」を聞くために、クラスの人に聞いて回る。その際、相手に「知っている場所」を聞かれたら教え、地図を完成させる。</p> <p>3限</p> <p>I. 1、2限の復習</p> <p>II. タスク</p> <p>学習者2名×3組。各組、通行人に目的地の場所を聞き、ゴールへ行く。(TA・実習生・見学者付き添い)</p>
反省	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業で導入した語彙は既習語彙であったが、学習者自身が忘れてしまった・分からない等もあり、また、語彙の数が少し多かったため、学習者の負担となってしまったように思う。語彙力をつけることは学習者の努力も必要であるが、効果的な語彙の指導方法について考えさせられた。</li> <li>・授業内で行ったタスクの一つが、説明が難しかったようで、学習者に理解してもらえるまでに時間がかかってしまった。タスク自体の難易度も重要であるが、説明が複雑になり過ぎてはいけないと反省した。</li> </ul>
担当者	入江友理
目標	<p>徒歩圏内の道を聞いたり、説明したりすることができる</p> <p>自分が相手の説明を理解しているか、していないか、示すことができる</p>
構成	<p>I 同じ敷地内にある目的地の場所を聞く</p> <p>「～はどこですか」「～Vて、～Vと、～があります」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地図や写真を見せながら、モデル会話を練習する</li> <li>・大学構内を模した簡単な地図を用いて、敷地内の案内を練習するタスク</li> </ul> <p>II 少し距離のある目的地への行き方を聞く</p> <p>「～に行きたいんですけど、どうやって行ったらいいですか」</p> <p>「～はわかりますか」「～ですね？」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地図や写真を見せながら、モデル会話を練習する</li> <li>・地図を使ったインフォメーションギャップタスク (ペアで)</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「～Vて、～Vてください」→「～Vて、～ですね？」練習</li> </ul> <p>Ⅲ近くにあるかどうかわからない目的地の場所を聞く</p> <p>「この辺に～ってありますか？」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地図や写真を見せながら、モデル会話を練習する</li> <li>・「この辺に～ってありますか？」説明</li> </ul>
反省	<ul style="list-style-type: none"> <li>・初回で、何をどのくらい練習すればいいのかわからなかったため、あまり重要でない語彙までコーラスを指示してしまっていた。</li> <li>・地図や写真、モデル会話を拡大したものなど、教材を念入りに準備したにもかかわらず、あまり活用しきれずに、ただ見せて終わりになってしまった教材が多々あった。</li> </ul>

<b>全体の反省</b>	
<p>学習者にとっては、「道を聞かれる」機会より「道を聞く」機会のほうが多いだろうということで、できるだけ道を聞く練習ができるようにと授業の構成を考えた。3限の、実際に外に出て道を聞きながら目的地へたどり着くタスクも、よりオーセンティックな活動をしようと思って考えたが、今回の3コマ分のゴールがそのタスクだけだけに、「自分が道を説明する」練習をどれだけ入れたらいいのかわからない。</p> <p>3限のタスクは、付き添いも入れたグループで行い、学内を回るものだったので、大きなトラブルもなく、学習者は概ね楽しく回ることができたようであった。</p>	

#### 第14課 (2010年2月18日)

担当 TA : 田中典子	担当実習生 : 今澤ひろ子 塩瀬博子
<b>学習目標</b> 断ったり、謝ったりすることができるようになる。	
<b>学習項目</b> 場面 : <ul style="list-style-type: none"> <li>● 誘いを断る</li> <li>● 遅刻や約束のキャンセルを謝る</li> <li>● 注意されて謝る</li> </ul>	

形式：

- ～があります 「毎日日本語の授業があります」
- ～することになっています 「指導教官に会うことになっています」
- 名詞修飾+予定 「～する予定です」「～する予定があります」
- ～てしまいました 「財布を落としてしまいました」
- ないてください 「自転車をここに止めないてください」
- ～ようにしてください 「遅れないようにしてください」

文化：

- 風邪をひいて約束をキャンセルされた時、「お大事に」と言って気遣う。
- 書類の不備や図書館の使い方を注意されたときに、謝るだけでなく、「今度から気をつけます」と言い、今後の行動について触れる。
- 入浴のしかたなどについて言語化する。

	担当	予定時間	実際の時間	内容
1	田中	45分	45分	「ことになっています」「～する予定です」を使って、自分のスケジュールを言う練習。
	塩瀬	45分	45分	映画「AVATAR」を使って、友人を映画に誘う練習。他、カラオケ、バーベキューなどで誘う/誘いを断るロールプレイ練習。
2	田中	45分	45分	「～てしまいました」の文型練習。失敗を伝えて、アドバイスをもらう練習。
	今澤	45分	45分	「～てしまって…」を使って理由を言い、遅刻を謝るロールプレイ。「実は、～んです」を使って、約束をキャンセルし、謝るロールプレイ練習。
3	田中	20分	20分	「～ないてください」の文型練習。
	今澤	25分	27分	書類の書き方を注意する/注意されて謝るロールプレイ。
	田中	20分	20分	「～ようにしてください」の文型練習。
	塩瀬	25分	25分	図書館の使い方について注意する/注意されて謝るロールプレイ。



担当者	田中典子
目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 「～ことになっています」「～する予定です」などを使って、自分のスケジュールが言えるようになる。</li> <li>● 「～てしまいました」を使って、自分の失敗が言えるようになる。</li> <li>● 「～ないでください」「～ようにしてください」の形が自分で正しく言えるようになる→日本人に言われたときに何を注意されているのかわかるようにする。</li> </ul>
構成 (授業の中で担当した部分)	<p>1 限&lt;スケジュールを言う&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 導入：来日したのはいつかを聞いて、カレンダーの日付が言えるかを確認。学習者の所属する研究科を聞き、現在の状態－指導教官との面談はあるか、日本語の授業だけなのかなど1週間の授業スケジュールをそれぞれ言ってもらい板書。曜日の言い方確認。</li> <li>2. スケジュール表を配布し、自分のスケジュールを書いてもらう</li> <li>3. 「～があります」を使って自分のスケジュールを言う練習 例)「毎日授業があります。○曜日は授業はありません。」</li> <li>4. 「～ことになっています」を使って自分のスケジュールを言う練習 例)「金曜日は指導教官と会うことになっています。」</li> <li>5. 「～する予定です」を使って自分のスケジュールを言う練習</li> </ol> <hr/> <p>2 限&lt;失敗について話す&gt;</p> <p>「謝る」ときの表現として「～てしまいました」を応用練習で用いるため、語彙と形の確認を行った。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 絵カードを用い、「～てしまいました」を作る練習 (このとき、「寝坊してしまった」「道に迷ってしまった」など 時間に遅れて謝るときに使う語彙を導入)</li> <li>2. 困っていること・失敗を伝え、アドバイスをもらうロールプレイ</li> </ol> <hr/> <p>3 限&lt;注意する&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「～てください」「～ないでください」を復習 絵カードを用いて目の前のルール違反について注意をする表現の練習。</li> </ol>

	<p>・ 友達の答案をのぞき見している絵→「見ないでください。カンニングはしないでください。」</p> <p>・ 窓を開けられて作業中の紙が飛ばされる絵→「窓を開けないでください。→窓を閉めてください。」など。</p> <p>2. 「～ようにしてください」を復習 直接的に注意する設定ではなく、文化的なマナー違反について 相手との関係をこわさず言う設定で練習。</p> <p>「日本では食事のとき、茶碗を持って食べるようにしてください。」 「お風呂の中で体を洗わないようにしてください。」など</p>
<p>反省</p>	<p>白紙のスケジュール表は配布したが、記入についてうまく誘導できなかった。白紙のカレンダーより、記入例をいっしょに示したほうがよかったように思う。あるいは導入時に同時に配布して板書と同時進行で記入してもらったほうがよかった。断る練習で「手帳を見てやりとりする」ことを想定していたが、学習者の記入が少なかったため、断る理由は学習者本人のアドリブに頼ることになった。勘のいい学習者は応用練習で「指導教官と会うことになっています」と使っていたが、意図的に予定を書かせてもよかったと思う。</p> <p>「ないでください」は CMJ14 課での文法事項であったこと、注意されて謝るシチュエーションを設定したことで取り上げた。媒介語は説明時には使用しない方針で授業をしたので、シチュエーションの説明は絵カードを多用した。入浴方法（お湯をはって、入浴者が入れ替わってもそのまま）については、いまだに日本の習慣について受け入れられない学習者がいることがわかった。</p>

<p>担当者</p>	<p>今澤ひろ子</p>
<p>目標</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 遅刻や約束のキャンセルを謝ることができるようになる。</li> <li>● 書類の書き方に関する注意を理解し、謝り、間違いを正すこと</li> </ul>

	ができるようになる。
構成	<p>1 限&lt;遅刻や約束のキャンセルを謝る&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 遅刻を謝るロールプレイの導入・場面の提示</li> <li>2. 遅刻を謝るロールプレイをペア練習・発表（ロールカード使用）</li> <li>3. 約束をキャンセルするロールプレイの導入・場面の提示</li> <li>4. 約束をキャンセルするロールプレイをペア練習・発表（ロールカード使用）</li> </ol> <p>-----</p> <p>3 限&lt;書類の不備を注意されて謝る&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 書類の不備を注意する/注意されるロールプレイの導入</li> <li>2. 不備のある簡易奨学金申込書を配布し、ペア練習・発表</li> </ol>
反省	<p>遅刻や約束のキャンセルを謝るロールプレイでは、45分間同じ方法でロールプレイ練習を行ったために、授業が全体的に単調になってしまった。また、ロールカードに用いた語の中には、学習者の未習語彙が多く含まれてしまい、ロールカードの語彙説明に時間を割いてしまった。配慮が足りなかった点である。</p> <p>書類の不備を謝るロールプレイでは、注意されていることを理解するためにも、注意する側の練習も必要と考え、学生に練習してもらったが、そのために「～ないでください」を使う注意する言い方に学生の意識が向いてしまい、&lt;謝る&gt;という学習目標に意識を向けられなかったように思う。ロールプレイの導入時に、謝る言い方をより強調して提示するべきだった。</p>

担当者	塩瀬博子
目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 断ることができる</li> <li>● 謝ることができる 注意がわかるようになる</li> </ul>
構成	<p>1 限&lt;理由を言って断る&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 「AVATAR」の広告を使って、誘い方と応じ方の会話復習</li> <li>2 絵カードを使った誘いへの断り方の復習 「ごめんなさい。～はちょっと・・・」</li> <li>3 断りに理由を付け加える表現の活性化 1 コマ目前半の「～ことになっています/いるんです、～があるんです」の表現想起</li> </ol>

	<p>上記表現の文字カードを W. B. に貼る  「またさそってください (ね)」の付け加え</p> <p>4 理由を言って誘いを断る応答練習 (T が絵パネル——カラオケやバーベキューパーティー、デートなどの絵——を用いて誘う→学習者は理由を言って断る)</p> <p>5 絵パネルを見ながら、ペアでロールプレイ</p> <p>6 ロールプレイの発表とフィードバック</p> <p>-----</p> <p>3 限&lt;謝ることができる 注意がわかるようになる&gt;</p> <p>1 図書館の場面提示と「返却期限」の語彙導入</p> <p>2 導入会話「～ようにしてください」  本の返却が遅れた学生に「返却日までに返すようにしてください」「これから気をつけます」で、モデル会話</p> <p>3 「～ないようにしてください」  図書館内で飲食をしている学生と図書館員との (Tによる) ロールプレイを見せる。  「ここで食べ物を食べないようにしてください」でモデル会話</p> <p>4 絵カードを見せながら  「～ようにしてください」 → 「～てください」  「～ないようにしてください」 → 「～しないでください」  の変換練習</p> <p>5 絵カードをペアに配り、絵を見ながら「わかりました」「これから気をつけます」の表現を用いて、「注意→応答」「アドバイス→応答」のペアワーク</p> <p>6 ペアのロールプレイ発表</p>
<p>反省</p>	<p>「断る」ことの練習では「誘い」の導入時、週末 (土、日曜日) ばかりで設定してしまったが、前半授業で使われたスケジュールを利用すれば、繋がりが出たのに、と思う。</p> <p>この授業では学習目標が絞られていたため、W. B. の絵パネルを見</p>

	<p>ながら、各ペアでいろいろな場面での練習が活発に行われていた。また、この課の文法・文型はよく入っており、積極的に使用している姿や会話をふくらませている姿が見られた。</p> <p>導入時に「AVATAR」を使ったことで、話題性があり、学生の興味を引き付けられてよかったのではないかと感じた。(当初は他のことを予定していたが、変更した)しかし、最後の方ではクラス全体で行うタスクを予定していたが、時間不足でできなかったことが反省点である。</p> <p>3限の注意がわかるようになる、では「～ようにしてください」と「～ないようにしてください」の表現は発話出来ることよりも注意がわかることを目的とした。学生達はよく理解ができていると感じた。ロールプレイも積極的に行っていた。</p> <p>注意された時とアドバイスを受けた時、その場合によって「これから気をつけます」と「わかりました」の使い方が異なるが、その点をもう少しこちらで明確化して確認をした方がよかったかもしれないと思った。</p>
--	---

<b>全体の反省</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習目標「断る・謝る」を留学生が実際の生活の中で遭遇する場面で考え練習をした。チーム内で導入→応用練習の形をつくることができ、文法項目が独立するということがなくよかった。</li> <li>・誘うことから、誘いを断る、遅刻・約束のキャンセルという授業間の関連があり、学習者にとっても理解しやすかったのではないかと思う。</li> <li>・しかし、文字カードを多く使い、ホワイトボードに提示したことで、学習項目の文型・語彙が学習者にとってわかりにくかったように思う。</li> </ul>	

**第15課 (2010年2月19日)**

<b>担当 TA</b> ：國澤里美	<b>担当実習生</b> ：姜京男 ・ 小山友里江
<b>学習目標</b>	

簡単なスピーチをすることができる

### 学習項目

スピーチ全体の構成・表現・スピーチスキルを考える。  
 インタビューを通して各自トピックを選び、スピーチ原稿を作る。  
 自分の国についてスピーチする。スピーチを聞いて質問・評価する。  
 気持ちを表す言葉を使って体験談を話す。

	担当	予定時間	実際の時間	内容
1	國澤	45分	90分	スピーチ全体の流れ・表現の確認。 トピック選びのための活性化。
2	姜	45分	90分	インタビューシートからトピック選び。 スピーチの下書き。
3	小山	45分	50分	スピーチを行う。スピーチを聞き評価する。
	國澤	135分	40分	気持ちを表す言葉を使って体験談を話す。

担当者	國澤里美
目標	スピーチ全体の構成を意識しながら、適切な表現が使えるようになる。 スピーチのトピックについて活性化をはかる。
構成	1. 印象に残ったスピーチや自分がしたスピーチについて話す 2. 教師によるモデルスピーチの提示（テーマ：おすすめの観光地） 3. スピーチ全体の構成・表現を確認する 4. アドバイス表現の復習 5. トピック選びの活性化 ：お互いの国についてペアでインタビューし、アドバイス表現を使って答える
反省	授業開始が遅れたためにその後の予定もずれてしまった。最初の2コマを使ってスピーチを完成させるつもりで授業計画を立てたが、学習者がそろわない場合は冒頭からメインのスピーチ作成に関わる活動をするのではなく、3限目の後半に行ったような予備の活動を取り入れるといった流動的な計画を立てておけばよかった。

担当者	姜京男
目標	スピーチをするため、スピーチ内容を膨らませる。 スピーチスキルについて考える
構成	1. インタビューシートからトピック選び、トピックシートに記入 2. 選んだトピックについて質問し合う（ペア活動） 3. トピックシートを見ながらスピーチシートに下書き 4. スピーチスキルについて考える 5. スピーチスキルを念頭に、グループでスピーチの予行練習
反省	スピーチの準備段階として、インタビューシートやトピックシートを用意し、スピーチ内容を膨らませるような活動を計画した。教師からの質問もスピーチ内容がより広がるように具体的な質問が多く、活発に活動が行われたのはよかったが、学習者の書く時間の設定が不十分だったため、実際予定した時間の2倍ほどかかってしまった。 配布資料と指示の順番に関して、配布資料を先に配ってから活動の指示をしたため、指示が十分に伝わってなかったかもしれない。指示をするタイミングをもう少し考えるべきだった。

担当者	小山友里江
目標	自分の国について日本語でスピーチ出来るようになる。 他の学習者のスピーチを聞き、日本語で意見や質問が出来るようになる。
構成	1. 全員のスピーチが終わった後に①「どこに行きたいですか？」 ②「それはどうしてですか？」を聞くということを知らせる。 2. 評価シートの説明及び配布。 3. 学習者によるスピーチ及び質疑応答。 4. ①・②についてペアで話す。 5. ①・②についてクラス全体で話す。
反省	評価シートについての説明、指示の出し方が明確でなかったため、初めにスピーチを行った学習者の評価シートに記入していない学習者が

	数名いた。説明する際、指示を出す際の日本語や指示の出し方について もう少し明確にするべきであった。
--	--

担当者	國澤里美
目標	気持ちを表す言葉のバリエーションを増やす。 気持ちを表す言葉を使って、体験談が話せるようになる。
構成	1. 気持ちを表す言葉の導入・練習 2. 話の構成を確認 3. 気持ちを表す言葉を1つ選んで体験談を話す（ペア）
反省	ペアで練習した後、グループでスピーチを行う予定であったが、時間の関係で省略せざるを得なかった。そのため、最終的な目標が不明確な印象になってしまった。

<b>全体の反省</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・教師間の連携が十分取れなかった。</li> <li>・予想外のことが起こった際の対処法なども事前に3人で話し合い、考えておく必要があった。</li> <li>・各活動のゴールを明確に設定すべきだった。</li> </ul>	

### 第16課（2010年2月22日）

担当 TA：大和祐子		担当実習生：高木都 ミースワンモンシチャー		
<b>学習目標</b> 日本語の敬語を理解し使う事ができる				
<b>学習項目</b> 尊敬語（特別尊敬語）・謙譲語・伝えるときの表現「～そうです」				
	担当	予定時間	実際の時間	内容
1	大和	45	40	尊敬語の形（お～になる，～られる，特別な形）の確認と「お～になります」の練習。



	高木	45	50	尊敬語を使って、情報を得たり報告したりする表現の練習。
2	ミース ワン	45	55	謙讓語の形（お・ご～する，特別な形）の確認と練習。
	大和	45	45	謙讓語を使った会話の練習。
3	大和	90	90	尊敬語と謙讓語の確認とタスク。

担当者	大和祐子
目標	尊敬語と謙讓語を使って，会話ができるようになる。
構成	<p>（1限前半）</p> <p>①ウォーミングアップ</p> <p>②尊敬語を使用範囲と形（お～になる，～られる，特別な形）の確認</p> <p>③練習：「お～になります」の形の練習</p> <p>（2限後半）</p> <p>①練習1：質問カードで謙讓語を使って先生の質問に答える。（例：先生に本を借りますか。⇒ はい、お借りしました。）</p> <p>②練習2：絵をみて謙讓語を使って短い会話を作る。</p> <p>（3限）</p> <p>①尊敬語と謙讓語の復習。尊敬語と謙讓語のカードを3枚配り、学習者に、黒板にある尊敬語と謙讓語の枠の中に貼らせた。</p>

	<p>②まとめ：絵カードを見て、尊敬語と謙譲語を使った会話を作る。</p> <p>③タスク1：謙譲語を使って自己紹介を練習。(例：〇〇と申します。〇〇からまいりました。どうぞよろしくお願い致します)その後、学習者が自分で作った名刺を使って、クラスメイトと実習生にうそ自己紹介。</p> <p>④タスク2：「飛行機で初対面の人と話そう」練習後、発表。</p>
反省	<p>概念などの説明の必要があり、1日を通して、発話量が少なかった。敬語が使われる場面の設定が難しく、やや現実的な会話ができなかったと感じる。</p> <p>3限にタスクをまとめて行ったため、時間不足だった。もっとタスクに時間をとり、十分に練習できるよう、1日の時間配分を考えるべきだった。</p>

担当者	高木都
目標	<p>尊敬語を使って情報を得ることができる</p> <p>尊敬語を使って情報を伝えることができる</p>
構成	<p>(1限後半)</p> <p>①導入：尊敬語の確認(動詞のフラッシュカードを使用し、尊敬語・特別尊敬語に変換する練習)</p> <p>②練習：学生の指導教官について質問し、尊敬語を使って答えさせる(例：「先生はコーヒーが大好きですか。」「はい、大好きです。」)</p> <p>③タスク「すずき先生のスケジュールを完成させる」</p> <p>→すずき先生という架空の先生を設定し、すずき先生が学生の国に行くため、先生のアシスタント(ビジター：すずき先生の情報が書かれたロールカードを事前に配布)から情報を集めた上で、クラス全体に報告し、先生のスケジュールを全員で立てる。</p>
反省	<p>練習の際に学生があまり指導教官と面識がないことから、なかなか思うような尊敬語の練習ができなかった。</p> <p>タスクに関しては説明が十分でなかった点で途中学生個人に説明しなおす場面もあったが、尊敬語を使用し情報を集めるという学習目標は達成されていたように思う。</p>

担当者	ミースワン・モンシチャー
目標	謙讓語を理解し、使うことができるようになる。
構成	<p>①導入：謙讓語の使用範囲の確認（先生と私の関係の絵を黒板に書き、尊敬語と比較しながら説明した）</p> <p>②練習1：「お・ご～します」の導入と練習（動詞の文字カードと絵カードを使用し、「お・ご～します」に変換する練習）</p> <p>③練習2：特別な形の導入と練習（動詞の文字カードと絵カードを使用し、特別な形に変換する練習）</p>
反省	<p>①謙讓語の導入には、概念をうまく説明できなかつたので、学習者が混乱し、練習の際にどう答えればいいのか、分からなくなつた。 ⇒ 分かりやすい絵や例を使って導入すべきである。</p> <p>②教材には、文字カードが多過ぎて絵カードも小さかつたので、使う順番も混乱し、学習者にも分かり辛かつた。 ⇒ 必要なだけに無理せずに文字カードと絵カードを使用し、使う順番をちゃんと並べておくべきである。</p> <p>③謙讓語の練習項目については、カードをたくさん準備したので、学習者にむりやりに練習させた。結局、時間もオーバーし、学習者も混乱した。 ⇒ 練習項目を適切に選択し、時間をコントロールすべきである。</p>

<b>全体の反省</b>
<p>全体の構成はこれで良かつたと思う。時間配分には、タスクの時間が足りなかつたので、必要なだけに練習する時間を配分し、もっとタスクに時間をとり、十分に練習できるように1日の時間配分と時間のコントロールを考える必要がある。</p> <p>また、説明のやり方に関しては、概念、練習項目、タスクの説明が不十分で、学習者に分かりにくく、個人に再び説明することもあつた。絵や例を使用し、さらに分かりやすく説明するべきである。</p>

## 第17課（2010年2月23日）

担当 TA：石黒利江子		担当実習生：入江友理		
学習目標 依頼したり、招待したりすることができる				
学習項目 ・「～て。」「～てくれない?」「～てもらえませんか」「～ていただけませんか」 ・「～くらい／まで借りてもいい?／お借りしてもいいですか／お借りしてもよろしいでしょうか」 ・「～方」「～という N」				
	担当	予定時間	実際の時間	内容
1	石黒	90分	90分	・友達に依頼する 「～て。」「～てくれない?」 「～くらい／まで借りてもいい」
2	石黒	90分	90分	・依頼されて断る／断られて諦める 「～ことになっている」 ・先輩に依頼する 「～てもらえませんか」 「お借りしてもいいですか」
3	入江	45分	65分	・先生に依頼する 「～ていただけませんか／いただけないでしょうか」 「～という N」 「お借りしてもよろしいでしょうか」
	石黒	45分	25分	・応用練習

担当者	石黒利江子
目標	1 限：友達に依頼する 2 限：依頼を断る／依頼をあきらめる・先輩に依頼する 3 限：授業で学んだことを使う
構成	1 限

<p>I. ウォーミングアップ</p> <p>II. 依頼表現「～て」導入</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・貸す／借りる／返す 確認</li> <li>・て形ドリル て形ビンゴ</li> <li>・代入練習</li> </ul> <p>III. 実物やその場でできる依頼&amp;依頼を受ける練習</p> <p>IV. 「～てくれない？」導入</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①「～て」との違い 形の確認と練習</li> <li>②「～方」導入と練習</li> <li>③ものと動作のやりもらい復習</li> <li>④モデル会話1 提示・復唱</li> </ol> <ul style="list-style-type: none"> <li>・話の切り出し表現確認→表現＋～てくれない？練習</li> <li>・依頼の受け方、期限をきく 「いつまで？」「～まで／くらい」</li> </ul> <p>V. ロールプレイ&amp;発表</p> <p>2 限</p> <p>I. モデル会話2 提示</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①断り方とあきらめ</li> <li>②断る理由「～から」確認→練習</li> <li>③これまでの依頼の談話構成を確認</li> </ol> <p>II. タスク</p> <p>自分が依頼したいことと、できることが書かれたシートを持ち、クラスメイトに依頼して回る。相手に依頼された場合は、自分のシートをみて判断。</p> <p>III. 先輩への依頼 「～てもらえませんか？」導入</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①「～てもらえませんか」形の練習</li> <li>②モデル会話3 (OK の場合) 提示・復唱 友達の場合と異なることを確認</li> <li>③モデル会話4 提示 (断られた場合) 提示・復唱 表現の確認</li> <li>④先輩に依頼された時の断り方提示・練習</li> </ol> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「から」→「～て」 T—S 練習</li> </ul> <p>IV. タスク</p> <p>学習者は互いに異なるスケジュールを持ち、依頼する方は目下、</p>
---

	<p>依頼された方は目上という設定で行う。依頼された場合、自分のスケジュールを確認して返事をする。</p> <p>3限</p> <p>1・2限で学んだことをつかってタスク</p>
反省	<p>何を学習項目とするか考えている段階で、「貸す／借りる」「授受」は混乱するだろうと思い、教案では「貸す／借りる」と「～くれない」という形での提示にしていたが、「くれない？」導入後やはり質問がでた。そのため、当初予定していなかったが「ものの／行為の授受」を確認しながら復習した。その分時間をとってしまったが、学習者にとっては整理するよい機会であったようだ。「貸す／借りる」もきちんと整理するには時間が必要である。こういった項目は、今回の学習者だけでなく日本語学習者全般にとってなかなか理解・習得しにくいものであると再認識し、復習するという前提で授業構成・準備を行いたいと思った。</p>

担当者	入江友理
目標	先生に簡単な依頼ができる
構成	<p>I 「～ていただけませんか／いただけないでしょうか」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2 コマ目の「～てもらえませんか」を敬語にしたものとして導入</li> <li>・「印鑑を押す」「サインをする」など、いくつか用意して結合練習</li> </ul> <p>II 会話の流れを考える</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・部屋に入るところから出るところまでの間に必要な表現を考える</li> <li>・「今、お時間よろしいですか」「お忙しいところ、失礼しました」など</li> </ul> <p>III モデル会話①：「サインと印鑑をお願いする→OK」の例</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・Tが2人で実演し、そのあとクラスでモデル会話を練習</li> </ul> <p>IV モデル会話②：「推薦状を書いてもらう→日を改めて」の例</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・Tが2人で実演し、そのあとクラスでモデル会話を練習</li> </ul> <p>V 先生への依頼の流れの練習</p>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「アメリカ留学の推薦状を書く」「来週の発表のレジュメを見る」など、いくつかのシチュエーションについて練習</li> </ul> <p>VI「～という N」 例)『漢字ハンドブック』という本</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・あまりなじみのないものの写真を見せ、「～という」が名前を表すことを説明「カステラというお菓子」</li> <li>・出身都市の名前で練習「小田原というところ」</li> <li>・いろいろな本を用意し、『『こころ』という本』『『Tokai Walker』という雑誌』『『君に届け』という漫画』など練習</li> </ul> <p>VIIモデル会話③：本を借りる</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・Tが2人で実演し、そのあとクラスでモデル会話を練習</li> <li>・「～まで／くらいお借りしてもよろしいですか」練習</li> </ul> <p>VIII友達への依頼、先輩への依頼、先生への依頼、全部の復習</p>
<p>反省</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「～という N」で予定していた時間をかなりオーバーしてしまった</li> <li>・他の部分でも少しずつ時間がかかってしまったため、全体で予定よりも20分もオーバーしてしまった</li> <li>・「～という N」を学習項目の中に入れたが、全体の流れの中うまく入れられず、分離してしまった。そのため、学習者にも必要性が意識されず、うまく使われなかった</li> </ul>

### 全体の反省

対友人、対先輩、対先生と3パターンやったため、定型表現がかなり多くなってしまい、学習者への負担が多くなってしまった。

モデル会話で会話の基本的な流れを示し、その流れに沿って練習するという構成で授業をしたが、もう少し学習者自信がチャレンジして会話ができるか試すような導入の仕方を取り入れてもよかったと思った。

### 第18課 (2010年2月24日)

担当 TA：田中典子

担当実習生：今澤ひろ子 塩瀬博子

### 学習目標

1. 店や会社などに問い合わせる情報を得る。
2. 自分が得た情報を第三者に伝える。

### 学習項目

場面：

- 相談をして、予定を決める。
- 店に電話で問い合わせ・予約をする。

形式：

- ～より～のほうがいいです/いいと思います。
- ～にします/しましょう。
- あのー、ちょっと伺いたいんですが。
- ～日は空いていますか。
- じゃ、また相談してから電話します。
- ～そうです（よ）／～って／～みたいです
- ～に聞いたんですけど／～に電話したんですけど
- もう少し安くしてくださいませんか。（値引きを求める言い方）
- 大きさはどれぐらいですか

語彙：

- 宿泊施設に関する語彙（朝食付き、和室、洋室、シングル、ダブルなど）
- 交通に関する語彙（片道、往復、所要時間、学生割引、往復割引など）
- 店の営業に関する語彙（定休日、営業時間、大部屋など）

	担当	予定時間	実際の時間	内容
1	田中	45分	45分	土日の2日間、京都で開催される学会に行く設定で、複数のホテルの立地・設備・料金を比較する。宿泊施設を相談して決めた後、電話で予約をするロールプレイ。
	今澤	45分	60分	時刻表や料金表から、新幹線・高速バスの利点を話し合っ、学会までの交通手段を決め、電話で予約をするロールプレイ。



2	田中	45分	35分	飲食店の定休日・料理内容を比較し、飲食店に電話で問い合わせるロールプレイ。
	塩瀬	45分	47分	前半で、電話で問い合わせた内容を第三者に伝える。その情報をもとにみんなで相談し、飲食店を決め、代表者が再度電話をして予約をするロールプレイ。
3	塩瀬	40分	40分	掲示板に「譲ります・売ります」の情報を書き込むために必要な語彙を学ぶ。また買いたい時の値引きの言い方を練習する。
	田中	50分	50分	掲示板の「譲ります・売ります」のちらしを見て、それを貼りだした個人に電話をかけ、不明な情報を相手から聞き出し、受け渡しの日時方法まで決めて終了する。

担当者	田中典子
目標	<p>全体の目標：サービス機関、あるいは個人に電話して、情報を得る</p> <p>1限</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 宿泊施設に電話で問い合わせ、情報を得る</li> <li>● その場で決められない場合「またあとで相談して電話します」が言えるようになる</li> </ul> <p>2限</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 飲食店に電話で問い合わせて情報を得る</li> <li>● その場で決められない場合「じゃ、また相談してから電話します」が言えるようになる</li> </ul> <p>3限</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 掲示板の「譲ります・売ります」のちらしを見て、それを貼りだした個人に電話をかけ、不明な情報を相手から聞き出す</li> <li>● 手に入れた情報をもとに交渉する（情報を発信する側・情報を手に入れる側両方を練習する）</li> </ul>
構成	1限<宿泊施設の電話予約>

	<p>1. 導入：2日間の京都の学会、日帰りして通うか宿泊にするか →全員宿泊</p> <p>1. 資料を見ながら、宿泊施設の特徴を理解する。語彙の導入 2. 宿泊施設を比較し、選択する 3. 電話予約の練習</p> <p>-----</p> <p>2 限&lt;飲食店への問い合わせ&gt;</p> <p>1. 導入：先生から学会1日目に研究室全員（20名）で 食事に行くための店の予約を頼まれたという設定を作る。 2. 資料を見ながら、どの店がいいか意見を言う。 3. 不明点（「不定休」と買っている店の休みの確認など）について</p> <p>飲食店へ問い合わせ、予約に必要な情報を得る練習。</p> <p>-----</p> <p>3 限&lt;不用品譲り受けの交渉&gt;</p> <p>1. （前半続き）学習者「不用品売ります」ちらしを完成 2. ホワイトボードを掲示板に見立て、学習者のチラシをはり、 内容を 確認。その後、自分がほしいものを選んでもらってペアを作る。 3. 売り手と買い手で、電話のロールプレイ（プリント配布）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 不明な情報を売り手に聞く練習</li> <li>・ 受け取り方などを相談する練習</li> </ul>
<p>反省</p>	<p>1 限では、ホームページを検索して、その中でホテルを見て探す ということを想定し、ホームページの情報を加工して利用した。未 習語彙は前もって入れるというよりも、わざとわからない言葉を入 れて、学習者に漢字から予想してもらったり、電話して聞いてもら うことを目指した。ただ、学習者のレベルを考えるともう少し大胆 な二次加工か、あるいはわからない部分を絞りこむことが必要だっ たように思う。また、「パソコンは使えますか（LANはありますか）」 なども言わせなかったが、出てこなかった。簡単な指示カードを作 ってもよかったかもしれない。ここでもたついたため、実際の電話</p>

	<p>予約の練習が短くなってしまった。しかし、学習活動を理解して先回りして、こちらが指示しなくても、教科書のモデル会話を見て、それを利用して答える学生がいて、その学生のおかげで流れができた。</p> <p>2限では前半部分はレストラン・飲食店について各学習者に問い合わせの練習をしてもらった。(教師が店側を演じる。) 20名の予約について、わざと10名ずつ部屋が分かれるなどの答も用意しておき、「また相談してから電話します」と一旦電話を切らせ、情報を持ち帰らせた。(→後半の授業、各自が得た情報をもとに、お店について比較検討するという活動に引き継ぎ)。</p> <p>店側を教師が演じたため、対教師の会話で、発表者は一人になってしまい、発話の機会が限られた。あとでお互いが知らない情報を共有するために第三者に伝えるという活動を考えると、見本は1つで、その後は実習生にも参加してもらって、同時進行で全員が話せるようにしたほうがよかった。</p> <p>3限のロールプレイでは、電話の会話見本を示した後、大きさを聞くためにどんな表現を使っているか、などの確認をしたほうがポイントを示すことができ、その後の活動がスムーズに行ったであろう。日本人とペアになった学習者(実習生2名の協力を得て2組)に関しては、相手をしてくださった方に任せ、学習者同士のペアに教師がつき、会話の訂正を行った。ペアはチェンジして何度も練習するようにすればよかった。ペア固定で時間をとりすぎたため、発表する時間がなくなってしまった。</p>
--	--

担当者	今澤ひろ子
目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 交通手段を選択するための語彙を理解する</li> <li>● 相談をして、予定を決めることができるようになる</li> <li>● 電話での問い合わせ・予約ができるようになる</li> </ul>
構成	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 料金表・時刻表から情報を読み取り、交通手段を比較</li> <li>2. 希望の交通手段について話し合う</li> <li>3. 時間帯について話し合う</li> <li>4. 電話予約の表現練習(モデル会話を提示)</li> <li>5. 電話予約のロールプレイ(オペレーター役は教師)</li> </ol>
反省	電話予約のロールプレイがメインの授業だったが、未習語彙が多

	<p>く、交通手段の比較に時間をとられてしまったことが反省点である。時間などの数字を日本語で言うことも困難だったようで、電話予約の表現よりも、予約する内容に学習者の意識が向いてしまったようにも思う。</p> <p>電話予約の会話は、オペレーターの発言のみを書いたモデル会話のプリント配布し、学習者の発言を考えてもらった。ロールプレイの時に、そのモデル会話にこだわってしまい、学習者の発言に臨機応変に答えられなかった点も反省点である。実際の電話予約の場では、モデル会話どおりに会話が進まないことの方が多いので、臨機応変にアレンジできるようにしたい。</p>
--	---

<b>担当者</b>	塩瀬博子
<b>目標</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●伝聞表現を使って人から聞いた情報を伝えることができる。</li> <li>●理由を言って相談し、店の予約をすることができる</li> <li>●「譲りたいもの・売りたいもの」の情報を発信することができる。</li> </ul>
<b>構成</b>	<p>2 限&lt;情報を伝えて、店を決めて予約する&gt;</p> <p>1 「～そうだ／～って／～みたい」——伝聞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 絵カードを使い、伝聞の導入をし、<span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">～って</span> <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">～そうだ</span> <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">～み</span> <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">たい</span>の文字</li> <li>・ カードを W. B. に貼る。</li> <li>・ フラッシュカードで品詞別の文法練習（ドリルと文作）</li> </ul> <p>2 「電話したんだけど～／～に聞いたんだけど」——情報源</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 文字カードによる導入・紹介</li> <li>・ 情報源＋伝聞 の練習</li> </ul> <p>3 「～にします／～にしませんか／～にしましょう」——決定</p> <p>上記の表現を用いて、相談して決める練習</p> <p>ロールプレイ——①電話で店の予約をする(店員役は T が行う)</p> <p style="text-align: right;">②行き方を電話で尋ねる(店員役は T が行う)</p> <p>-----</p> <p>3 限&lt;情報提示のための語彙や表現を学ぶ&gt;</p> <p>1 不用品のレアリア(バス・グッズセット)を使った導入。</p>

	<p>2 要らないものを売りたいとき、その情報提示のための語彙（サイズ、形、色などに関するもの）を学ぶ。</p> <p>3 購入する時の「値引き交渉」の言い方、「もう少し安くしてくださいませんか／安くなりませんか」等の表現を練習する。</p>
<p>反省</p>	<p>「伝聞」の練習時、機械的なドリルに終わり、コンテキスト・文脈での練習がなされなかった。「伝聞」についての分析不足と一番重要な、場面を使った練習がぬけてしまった。また3つの伝聞表現のうち、その提出順にも問題があり、典型的な「～そうだ」から始めるべきだったと感じた。また、文字カードを使いすぎ、それに気を取られて学習者に対応しなかった部分が往々にして見られた。文字カードは最小限にしたほうがいいと思う。</p> <p>この授業では項目が比較的多く、情報源・決定の言い方練習まで十分にできなかった。時間上のこともあるとはいえ、やるべきことができていなかったと反省している。学習者の立場に立って、もっと項目を絞り込んだほうがよかったのかもしれない。ロールプレイ時には学生達は、難しいながらも頑張って挑戦していたと感じた。</p> <p>3限目の前半で学生達の反応が思ったよりも弱かったのは、導入の不十分さであったと反省している。いきなり担当者自身の不用品レアリアを提示して一方的に導入をしてしまったが、まず学習者に「皆さんは家に何か要らないものがありますか」と投げかけ、学生からの答えを引き出した後「要らないものがあつた時、どうしたらいいですか」「(掲示板で) 売ります、のチラシを見たことがありますか、皆さんの国でもそのようなチラシがありますか」などの身近な質問のQ&amp;Aで、学生のイメージを膨らませることから始めればよかったと思う。</p> <p>それらのやり取りでその後のタスクもよりスムーズに活発になったかもしれないと感じた。教師主導ではなく、「学生から引き出すこと」を今後の課題にしたい。</p>

**全体の反省**

1・2限では、学習者の生活の中で起こりそうな、皆で京都の学会に行くと

いう場面を設定し、それに必要な宿泊施設の予約・交通手段の予約・大人数で食事できる店の予約の練習を行った。場面が想定しやすかったようで、交通手段の相談の時にはさまざまな意見があがり、盛り上がった。また、繰り返し電話で問い合わせ・予約の練習を行ったため、電話での会話の入り方はかなり定着したのではないかと思う。

1 限目後半の練習が長引いてしまい、2 限前半の飲食店への問い合わせをする活動で少し時間を削ってしまった。そのために、その後の飲食店を相談して選ぶ活動で、選択肢が減ってしまい、相談するという活動がうまくいかなかった。授業間で関連のある内容だったために、時間配分の失敗が大きく響いてしまった。

3 限では、学習者が発話する時間の配分が少なかった。前半もインプット中心にせず、語彙を入れたら、物の描写をさせるなど具体的な練習につなげることができればよかった。後半では学生のペアは固定せず、組み合わせをどんどん変えて、「情報を発信する」、「情報を手に入れる」練習がもっとできれば 18 課のまとめになったのではないかと思う。

## 第 20 課 (2010 年 2 月 25 日)

担当 TA：國澤里美		担当実習生：姜京男・小山友里江		
学習目標 簡単なディスカッションをすることができる				
学習項目 ・「～ている」の復習 ・「～と思います」「～んじゃないでしょうか」を使って意見を言う ・相手の意見を受けて使う表現「それはそうかもしれませんが、～」「私もそう思います」 ・相手の意見を聞いて、それに対する自分の意見を言う。				
	担当	予定時間	実際の時間	内容
1	國澤	45 分	45 分	「～と思います」「～んじゃないでしょうか」

				か」を使って自分の意見・理由を言う練習
	姜	45分	45分	「～ている」の復習、意見・理由を言うときの表現（～と思う）、相づち表現の練習
2	小山	45分	50分	自分の意見を日本語で伝える練習 「そうですね」「そうですか」「私もそう思います」 「それはそうかもしれませんが」を用いて
	國澤	45分	40分	ディスカッションとそのフィードバック
3	國澤	90分	90分	いろいろなトピックについてグループで意見を交換する

担当者	國澤里美
目標	自分の意見とその理由が言えるようになる。
構成	1. 「～と思います」「～ですが、～と思います」「～ですから、～と思います」の練習 2. 「～んじゃないでしょうか」「～んじゃないでしょうか。～ですから」の練習 3. 与えられたトピックについて自分の意見を理由と一緒に言う
反省	フォームもイントネーションも特に問題なくできていた。教師からのキュー出しやトピックの提示が多かったが、よくできていたので、もう少し学習者間での活動を取り入れてもよかったと思う。

担当者	姜京男
目標	自分の意見が言えるようになる。 相手の意見に肯定・反対の相づちを打てるようになる。
構成	1. 「～ている」の復習 2. 「～〇〇は必要だと思います」ペアで意見と理由を言う練習 3. 肯定・否定の相づち表現の練習 4. 教師が一人ずつ話題を振り、意見と相づちの表現を練習 5. グループで同様の練習
反省	～ているの復習は絵を見ながら発話を促したが、曖昧な絵があったため、教師が想定した表現以外の発話もあり、その対応が十分であ

	ったとは言い切れない。「～ている」の練習にポイントを絞るなら、より明確な絵を提示すべきだっと思う。「～は必要だと思いますか」の表現は、生活で起こりうる話題を振りながら練習を促したので、形式は単調であったが、内容は親しみやすく、学習者の興味を引き付けたと思う。
--	---

担当者	小山友里江
目標	自分の意見を自分の日本語で伝えられるようになる。
構成	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「もし 100 万円を拾ったら何をしたいですか？」 / 「もし 2 ヶ月休みがあったら何をしたいですか？」・「それはどうしてですか？」についてペアで話す。その後全体で意見を出し合う。</li> <li>2. 「お金と時間どちらが大切ですか？」について質問を行う。</li> <li>3. 1 限で学習した意見を述べる際の表現を再確認する。</li> <li>4. 「簡単なディスカッション」を行うことを伝え、同じ意見の人とグループになり、意見を出し合い、グループで 5 つの強い主張をディスカッションの対策として考える。</li> <li>5. ディスカッションの準備、意見を述べる際の表現の再確認</li> </ol>
反省	<p>指示の出し方が明確でなかったため、同じグループになり、意見をまとめる</p> <p>予定が個人の意見を述べているグループとグループで 5 つまとめるグループと活動に違いが出てしまった。指示の出し方とタイミングを明確にする必要があった。</p>

担当者	國澤里美
目標	相手の意見を聞いて、それに対する自分の意見が言えるようになる。
構成	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ディスカッションのルールの確認</li> <li>2. ディスカッション（テーマ：お金と時間とどちらが大切？）</li> <li>3. フィードバック</li> <li>4. ペアでお互いに意見を言う（テーマ：都会と田舎、住むならどっち？）</li> </ol>
反省	それぞれの立場から意見を出したり、相手の意見にコメントしたり



	という一連の活動が積極的にできていたので、ディスカッション自体は盛り上がったと思う。ただしフィードバックについては、それが学習者にとって有益なものとなったか疑問が残る。
--	--

担当者	國澤里美
目標	いろいろなトピックについて、グループ内で意見交換ができるようになる
構成	1. 学習者2人(3人) + 実習生・見学者2人(3人) で1つのグループになるように、クラスを2つに分ける。 2. くじを引いて、出たトピックについて話す。(自由テーマも有) 3. 1つのトピックについて十分意見交換ができたり、話に困ったりした場合は次のくじを引いてドンドン話す。
反省	それぞれのグループのメンバーの関心によって話が進むのでグループ内での意見交換は積極的にできていたが、クラス全体としてのまとまりは弱かった。最後に1つのトピックについて全体で意見交換をする時間を持てばクラスのまとまりが出たと思う。

<b>全体の反省</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・計画した時間配分通りに進めた。</li> <li>・この日がコース最後であることを考えて3コマ目に比較的自由度の高い活動を持ってきたが、1日全体のつながりが良かったとは言いがたい。1コマ目に学習した内容について3コマ目でもきちんと意識してもらえようような練習を行ってからタスクに移れば1日のつながりが出たと思う。</li> </ul>	

#### 4 実習振り返りレポート

本節は、実習生、TAそれぞれが春季実習を振り返って書いた内省レポートを掲載する。実習生は、2010年度の授業（「日本語教授法及び実習」）の前期に、さまざまな角度から自らの実習を振り返り、自らの授業のビデオ視聴や他者からのコメントにより内省を深めた。その振り返りを踏まえ、夏季実習開始直前（7月）にレポートを書いた。授業を履修せず、夏季実習に参加しなかった2名はこのレポートを書いていない。一方、TAは春季実習直後（3月）にレポー

トを書いている。

## 4.1 実習生レポート

### 春季実習を振り返って —フィードバックを中心に—

日本語文化専攻現代日本語学講座 今澤ひろ子

#### 1. 春季実習におけるフィードバック

「日本語教授法及び実習」授業内の春季実習振り返りによって、自分自身の不十分な点が多く発見できたが、特筆すべきはフィードバックについてである。フィードバックが不足していることが多く、学習者と教師間の信頼関係や、学習者が練習しやすい教室環境作りにマイナスの影響があると考えられる。問題と思われるフィードバックは以下の通り。

- 誤用訂正の不足

例：会話練習中に誤用が見られた際、会話の流れを切らないように、誤用を指摘しない。しかし、後でとりあげることもない。

- 評価の不足

例：ロールプレイの発表後、評価もなく次の活動へ移る。

- 褒めの不足

例：学習者が会話内容について面白いアイデアを出したときの返答に、提示質問が正解だったときのフィードバックと同じ形式を用いている。表情などもあまり変わらない。

誤用訂正や評価は、教室活動・授業内容と深く関わるため重要である。褒めについても、学習者が積極的に発言できる教室環境を作る上で、また、学習者と教師の人間関係を構築する上で、同様に重要であると考えられる。今回、自らの授業のビデオを見る中で、学習者が学習言語で工夫を凝らした発言をしてくれたにも関わらず、取り上げ方・褒め方が十分でなかった場面に気がつき、非常に心が痛んだ。教室活動に関わるフィードバックはもちろんであるが、褒めに関する適切なフィードバックができるよう心がけたい。

#### 2. より適切なフィードバックのために

誤用訂正やロールプレイの評価については、教室活動の意義をより具体的にする必要があり、何を学習項目とするのか、何を優先するのか、といった点が自身の中で固まってい

れば、フィードバックをするタイミングにも困ることがないと思う。また、フィードバックの方法にもバリエーションを持たせたい。褒めに用いる形式を豊富に用意しておくことも手段の一つではあるが、それだけではなく、個人の発言を取り上げて教室全体に投げかけることも、褒めのフィードバックになる。そのような手段を、自分の教師活動や、学生生活の中で探っていきたいと思う。

## **春季実習を振り返って** **—実習の振り返りから得られた発見—**

日本語文化専攻日本語教育方法論講座 入江友理

### **1. 春季実習と振り返り全体に関して**

教育実習とその振り返りをこれほど長い期間をかけて行ったのは初めてだったので、とてもじっくりと行うことができ、今後に向けていろいろな手がかりが得られた。自分の授業だけでなく、TAの方たちも含め、他の実習生の授業にも参加し、いろいろな人の授業を見るなかで、他の人の授業のやり方の違いから得られることが多々あった。

また、振り返りでは、他の実習生と一緒に授業に対する考え方を話し合ったり、長所短所を指摘しあったりすることで、客観的に自分の授業を見つめ直すことができた。

### **2. 春季実習とその振り返りで得た新たな発見**

私は、現場での教育経験はほとんどないが、教育実習に関しては、今までに、日本語教師養成講座、アメリカ、韓国など、いろいろなところでやってきたので、日本語を教えるときにどんな授業を組み立てたらいいかということは、ある程度分かっていたつもりだった。しかし、今回の春季実習とその振り返りを通じて、自分は「コントロールが強い」「親切すぎる」授業をしているということが新たにわかった。これは今までの教育実習の影響があったためだと思われる。考えてみれば、養成講座の教育実習は、実習生が「どう教えるか」ということに目が向けられていたため、私だけでなく他の実習生もコントロールが強い授業を行っていたように思う。また、アメリカや韓国では、教科書が決まっていたので、ただそれをこなすだけだった。つまり、過去の教育実習では、「自分がどう教えるか」にばかり目が行ってしまい、「学習者に学んでもらうためにはどうしたらいいか」ということを考えていなかったのである。

春季実習の授業を考えていたときは、まだこの発見に至っていなかったため、「どう教え

るか」ということを考えた授業になってしまっていた。モデル会話を示し、その通りに練習する。状況設定を少しだけ変えて、また同じように練習する。授業をしていたときは、それで良いと思っていたが、その後の振り返りのときに、授業が単調になるのはどうしてかという疑問から「コントロールが強い」「親切すぎる」授業をしていたため、学習者が自分で考えたり、チャレンジしたりすることが少なかった、という反省点が見えてきたのである。

### 3. 今後のために

私は、授業をするとき、「学習者に考えてもらう」ことが少なかった。しかし、言語を使うためには「ここではどんな表現や言葉を使ったらいいのか。そして、それはなぜなのか」ということを考えなければならない。ここでこの表現を使うのはなぜなのかということ教師が示してしまうのではなく、学習者にも考えてもらって、みんなで納得して前に進んでいく必要がある。

コントロールが必要な箇所とそうでない箇所を考え、あまり親切になりすぎず、そして、学習者が自分で考えて日本語を使うことができるように、授業を考えていかなければならない。

## 日本語教師としての自分を知る

### — 春季実習を振り返って —

国際開発研究科国際コミュニケーション専攻 姜 京男

### 1. 全体の流れ

今回のレポートでは春季実習中、「簡単なスピーチをすることができる」を授業目標とした授業を振り返る。学習者に実際簡単なスピーチをしてもらうため、スピーチのテーマは学習者にとって身近な「私の国について」と設定した。チームの全体の流れとしては、学習者が自分の国について考えたあと、スピーチ内容を膨らませるため、ペアワークを行い、相手の国についてインタビュー形式で質問しあった。その後、インタビューした内容からトピックを3つ選び、さらにトピックについてインタビュー活動、インタビュー内容を参考にスピーチの下書き、インタビュー時の態度に関する注意点を考え、実際スピーチをおこなった。私はトピックシートについてのインタビュー、スピーチの下書き、インタビュー時の態度に関する注意点を担当した。

## 2. 反省点

春季実習を振り返るといくつか反省点がみえてきた。チーム全体としての反省点は、各活動の最低限のコール設定が不明確だった点、チームとしてフォローのタイミングについて連携が不十分だった点である。自分自身の反省点としては、指示の出し方が曖昧であったため、どのタイミングで動けばいいのか学習者は混乱してしまった。また、資料配布において、事前に資料を配布するタイミングを想定しておらず、十分注意を向かせることができなかった。時間配分に関して、スピーチの下書きの時間が予定した時間より2倍かかってしまったため、どの活動に時間をかけるべきかを考え、時間配分を決めるべきであった。

## 3. 夏季実習にむけて

春季実習では全ての活動において教師の例を見せながらタスクの説明をしたため、学習者は各活動をスムーズに取り組むことができ、コミュニケーションを大事にする授業雰囲気を作っていたため、学習者は発言を恐れずリラックスして課題に取り組むことができた。この点は夏季実習にも是非つなげたいと思う。ただし、リラックスと集中してもらうときをしっかりと意識し、メリハリのあるバランスが取れた授業にしなければならないと思う。夏季実習では春季実習の反省点・改善点を踏まえ、より多くの学習者に目を向け、学習者のニーズに応えられるように努力したい。

## 学習者中心の学習とは何か

### —— 指導の視点 ——

日本語文化専攻日本語教育学講座 塩瀬博子

#### 1 指導の視点 ——教授法に関して1番重要なこと

日本語教師として、「授業」という行為の前に、まず第一に考えないといけないことは、「学生に何ができるようになればいいのか」また、「どんな学習内容、どんな練習が学生にとって有効で、役に立つのか」という点である。それが明らかになったのが、本「日本語教授法及び実習」の授業であった。

自身のこれまでの指導を振り返ってみる。

日本語教師になって間もないころは、「教科書に記述してある文法項目に従って、その提示順に忠実に提示して教えていくこと」で精いっぱいであった。練習方法は、教科書はあまり使わず、確認的な使用とし、時々ゲームやロールプレイなども取り入れてはいたが、どちらかというと、オーディオリンガルの方法であった。

次の段階になると、コミュニケーション要素も入れ、クイズやゲーム、ストーリーテリングなど、学習内容に変化を持たせ、単調にならないようにそのような要素も多めに取り入れるようになった。そして、ロールプレイでは、学生のニーズに合わせて使用されるであろうという場面を考えて、時々練習を行った。

しかしながら、授業を前にして第1に考えるときに、まず自身の頭の最初にあるものは、例えば、「来週の授業は、受身形。〇〇を先にやり、△△を次にやり、…。そして練習方法はこれとあれで。でもなるべく学生がたくさん話せるような形で。」といったような、次の指導項目は何かということと、方法に関する指導側中心の考え方があったと思う。

理想的には「いろいろな文法項目や表現などを学習して、様々な場でそれらを使えるようになること」ということであった。そこには「何ができるようになるのか」という概念が欠落していた。

三段階目になってやはり、壁にぶち当たった。教室活動での学習において、学生はいくらこちらが工夫をしてもやはり受け身的である。これをどうしたら、「真に彼らが自身で自発的に学習できるように導けるのか」——いくら考えてもその答えが出てこなかった。

私の学生時代を振り返ると、小学生から大学生まで、一方通行的な授業しか受けてこなく、ペアワーク、グループワークなどもほとんど学校で経験したことがない。先生が一方的に話や説明をし、それを学生はしっかり聞きノートを黙々と取る。

当時そのような授業形態に反発を感じていたのに、やはり「それとあまり変わらない授業をしているのではないか、どのようにしたらいいのだろうか」と感じ、悩んだ末にもっと勉強がしたいと考えるようになった。また、プライベートや少人数で教える機会が多く、また多人数の場での教授経験が比較的短かったのも、その理由に当たる。(しかし、人数が異なっても指導の根本理念は同じであるのだが。)

この授業を通して学んだことは、指導をする際の視点である。授業時の様々な方の授業見学や報告、反省会、討論、先生のアドバイスや御意見などから、1番大切なことは、「学生にとって何をしたら、どんなことをしたら、助けとなるのか、有効になるのか」という視点である。私に欠けていたのはその視点である、ということが明らかになったことが、大変有益であった。学習者中心とは学習の形態ではなく、指導する側がスキャホールディングを行い、授業の場を離れても自身で学習ができるように導いていくことである、とようやく気が付いたのである。その点を柱に据えれば、自

ずと自身の疑問の答え、また特に「構成」・「内容」に関することが導かれると思う。

## 2 教授方法の課題と反省点 ——授業の実際

春季では2月18日と2月24日に実習を行った。

2月18日分では準備期間も比較的長く、目標も「断ることができる」ということのみであったため、多少の問題もあったが、自身としては比較的受け入れられる実習内容であったと感じた。

しかしながら、2月24日分の実習は準備不足、教材分析不足など、課題や反省点が多く、自身の力量不足が露呈した実習結果となってしまった。

担当授業の目標は「問い合わせで情報得ることができる」と「入手情報をもとに次の行動の選択ができる」であった。

第一の問題点は目標と実際の練習とのずれである。それが伝聞の文脈なしで、形だけの練習にかなりの時間が割かれた。文脈・背景なしで、形式の練習を多くしてしまった。

また、1回目の実習（18日）と2回目（24日）との実習を比較すると、なぜ1回目は比較的すっきりと展開が流れ、2回目はなぜそうではなかったのか(問題点が多かったのか)、との答えが出てくる。1回目は「断ることができる」という目標が一つであった。しかし、2回目は目標が多すぎ、指導内容が絞り込めていなかったからではないか。目標が多くなると、当然練習事項も増え、全体として散漫となる。時間も気になり、予定していたことも十分にできなくなり、焦りも生じる。もし目標が多かった場合、優先順位を付け、何を重視するか、指導項目・練習事項で削るものは削り、学生の今後の会話シチュエーションに鑑み、どこに比重を置いたらいいのか、を考えて教案を立てることが大切だとわかった。

また、これまで、自身の授業を客観的に見る、見ていただく、ということが（養成講座以外では）ほとんどなかったため、実習において授業時での自分自身を外からの眼でとらえることができたのは大変有益であった。

以前から気がついてはいたのだが、指示をする時の不適切さ——段階を踏まないいきなりの指示出し・唐突な質問・集中のさせ方の課題・癖になっている話し方（大丈夫？の連発・厳しさの欠如・メリハリの不足）などが確認できた。

最後にもう1度、この授業で明らかになった課題を下記に記したいと思う。

1)常に学生が主である、この授業で何ができるようになったのか、なるのか、とい

うことを念頭におくこと。

- 2) 学生が、授業の後も自発的に学習を行えるよう、道筋をつけること。
- 3) 授業の組み立てにおいては、欲張らないこと。何が重要で何を削っても構わないのか、これだけはできるようにしてほしいという観点で指導に臨むこと。

## 4.2 ティーチング・アシスタント (TA) レポート

### TA として参加した教育実習で得たこと

日本語文化専攻日本語教育学講座 石黒利江子

#### 1. 自分自身の実践について

一昨年実習生として参加した際には、「口頭コミュニケーション能力を養う」という教育実習日本語コースの目的に即した授業案を考えることに苦勞した。実習生として参加する前にも日本語教育経験はあったが、ある程度マニュアル化（期間や学習項目が決まっている等）されており、口頭能力を養うことに特化したものではなかったため、全く別物のよう感じてしまったからである。その結果、実際に授業を行い、タスクに入る前の練習が不足していた、予定時間をオーバーしてしまった等、反省点が多かった。

そうした反省点踏まえ、また、その後の日本語教育経験により、今回の教育実習についての授業では自分自身の成長を感じることができた。教育実習日本語コースの目的を念頭に置き、学習者の生活に密着した場面や状況を設定し、楽しく日本語で話してほしいと思い毎回の授業案を考えた。授業をどのように構成し学習者とのやりとりも含め発展させて行くか、想定外の事態に如何に対処し臨機応変に対応できるか等、実習生として参加した際の反省点を活かすことができたと思う。学習者、実習生、そして見学者から、「楽しかった」「使ってみます」「～の点が良かった」と嬉しいコメントをいただき、日本語教師という仕事の面白さを改めて実感した。しかし、実習生として参加した際とはまた異なった点に気がついた。学習者の日本語力より少し難しいタスクにしたはずが、難易度がぐっと上がってしまっていた等、学習者に接して初めて分かることへの対処法を予めもっと想定すべきであった。タスク自体の難易度も重要であるが、目標が何かを明示的に伝えることやタスクの説明もまた重要であり、それによって学習者にとって良い活動になるのだと思った。また、自分自身の得意なパターンがあることに気づいた。一つの学習項目・目標に対して、導入方法・練習・活動は色々なパターンが考えられるが、気づかぬうちに得意なパ



ターンになってしまっていたように思う。結果として、今回の授業では大きな問題はなかったが、得意なパターンばかりではなく、毎回異なる学習者を考慮し様々なパターンを想定し授業に臨むことが大切だと感じた。今回の教育実習で気づいた点・反省点を忘れず、学習者にとってより良い授業ができるよう努力して行きたいと思う。

## 2. TAとして実習生のサポートについて

今回 TA として実習に参加することになり、TA として実習生を引っ張りサポートする立場にいないが、当初は非常に緊張し、どの程度実習生と関わって行くべきなのか考えていた。また、私自身まだまだ勉強や経験が必要であると感じているため、私がすべき事は何か悩んでしまった。しかし、実際に実習生と一つの授業を作り上げるという過程の中で、TA としての役目が分かってきた。実習生には、私自身が実習生であった時の経験や日本語教育経験から、授業の構成、時間配分、内容についてアドバイスをしたが、反対に私自身が思いつかない案を提案してくれたり、コメントをもらったりと、色々な面で気づかされ勉強になった。教壇経験は確かに必要であると思うが、新しい見方や気づきは、他人からもたらされるものであると再認識した。

また、個人的なことではあるが、私自身があまり学校に行くことができず、実習生とのやりとりが不十分であったと思う。私が実習生であった時には TA に色々相談したいと思っていたので、もっと関わる時間を作ることが出来れば良かった。その点は何より実習生に申し訳なかったと感じた。それでも、一緒に授業を組み立て実践しやり終えた時には、充実感や達成感が大きかったので、実習生と会って相談する時間をより多くもつことができれば、実習生にも TA にとっても貴重な時間になり、学習者に対しても内容の濃い授業ができるのではないかと思った。

最後に感想を少し述べると、1回(1日)の授業に対して、教師が複数人関わりこれ程細かく授業案を自分以外の教師と考えるという経験は、普段の日本語教育では出来ない経験だと思った。現実的には厳しいかもしれないが、チーミーティングの良さと、一つのクラスに関わる教師間のコミュニケーションの重要性を改めて感じた。実習生として参加した際には、自身の授業で精一杯であったが、こうしてサポートについたことで、授業以外のことにも目を向けることができた。教育実習を通し実習生を通し、自分を見つめ直すことができ良い経験となったと思う。

## 2010年度の春実習を振り返って

## —TA として学べた点と反省点を中心に—

日本語文化専攻日本語教育学講座 國澤里美

### 1. 自分自身の授業について

#### 1.1 授業の目標

第1回目：簡単なスピーチをすることができる（『CMJ』L15）

第2回目：簡単なディスカッションをすることができる（『CMJ』L20）

#### 1.2 授業の内容

第1回目 (2/19)	1限	<ul style="list-style-type: none"><li>・スピーチについて（活性化）</li><li>・モデルスピーチの提示（自分の国の観光地について）</li><li>・スピーチの流れと表現の確認・練習</li><li>・ペアでインタビュー（お互いの国について）</li></ul>
	3限後半	<ul style="list-style-type: none"><li>・感情を表す言葉の導入</li><li>・上記の言葉を使って自分の経験を話す（全体・ペア）</li></ul>
第2回目 (2/25)	1限前半	<ul style="list-style-type: none"><li>・「～と思います」「～んじゃないでしょうか」の練習</li><li>・「～ですが、～と思います」「(理由)から。」の練習</li></ul>
	2限後半	<ul style="list-style-type: none"><li>・2つ目のトピック（田舎と都会とどちらに住みたいか）を決め、ディスカッション</li></ul>
	3限	<ul style="list-style-type: none"><li>・学習者2～3人+教師3人で1つのグループになり、様々なトピック（くじ・学習者が決める場合も有）について話す</li></ul>

#### 1.3 授業の反省

大きな反省点として、a) 時間配分に関する計画が甘かった、b) 予定・予想外のものへの対応に課題が残る、という2点が挙げられる。

まず、第1回目の授業に関して、2.1でも触れるが、時間配分が良くなかった。この日の大きな目標は、構成・表現・内容の3つのポイントに注意してスピーチができることであるため、1限前半の様子から無理に急がず発展させる方法を選んだ。しかし、授業開始時の出席者が多くないことは事前情報としてあったので、最初からもう少し余裕のある授業案を立てておけば良かった。

また、残り時間が少なくなったため、2つ目の「経験を語る」スピーチについては、1つ目の「自分の国を紹介する」スピーチと同様のレベルを求めることは難しいと考え、構

成に気をつけながらペアでエピソード語りをしてもらうことにした。しかし、指示が曖昧で、構成に気をつけて話すという目標が伝わり切らなかった。そのため、3 限後半だけ独立してしまった感は否めない。

2 回の授業において、全体の大きな目標は達成できたと思うが、予定変更後のターゲット周辺のフォローや予定外のものへの対応については多くの課題がある。また、授業内容だけでなく、学習者とのインターアクションにおいても、予想外のものへの対応はまだ不十分であると感じた。これについては今後の課題としたい。

## **2. TA としての仕事について**

### **2.1 TA としての反省**

第 1 回目の授業において、自分の担当箇所も実習生の箇所も、予定していた時間配分から離れたものとなってしまった。自分一人のクラスならある程度、流動的にかまわないと思うが、変更の可能性も想定していたとは言え、初めて教壇に立つ実習生のことを考えると、他に取るべき手段があったのではないかと思う。今回は遅れてきた学習者のフォローも含めて上手く対応できる実習生だったので良かったが、必ずしもこのようにはいかないだろう。

また、第 1 回目の授業に関して、3 コマ全体のまとまりが思っていたよりも良くなかったが、この理由として、TA の担当箇所についての説明が実習生に対して十分に行われなかったためであると考えられる。準備にあたり、まずチーム全員で 3 コマ通しての内容を検討し、その後は実習生の担当箇所について話し合いを持ち、最後に全体確認を行なったが、この最後の部分においてこちらからの情報提供がもっと必要だったと思う。第 2 回目の授業はこれを踏まえて準備したことと、第 1 回目に比べて担当箇所の分担がしやすかったため、改善はされたと思うが、起こりうる問題点をもっと事前に考えておくべきだったということが反省として残る。

### **2.2 TA としての学び**

私自身の教育経験はそれほど多いとは言えない上、今までは一人で担当するか、サポートされる側であることがほとんどであった。実習 TA の経験を通して、実習生がどう考え、どう見ているのか、という新たな視点から考えられたのは貴重な機会だったと思う。通常のクラスでは、教師と学習者という 2 つの立場にだけ注意を向けがちだが、実習生の存在によって、クラスをより多角的に捉えることができたように思う。

また、実習生と TA という立場ではあるものの院生同士であること、そして実習という場であるからこそ、情報や意見の交換が活発にできたと思う。話し合いに積極的に臨んでく

れた実習生に心から感謝している。

### **3. 実習全体を振り返って**

#### **3.1 感想**

実習生として、そして昨年度に引き続き TA として、この春実習に参加するのは今回で3度目であるが、私にとってここは独特の緊張感を思い出させてくれる場である。実習生として参加した時、ほとんど経験がない中でひたすら不安だったこと、理由も把握できない状態でただ落ち込んだこと、協力的な学習者に助けられたこと、TA の先輩や同期の実習生に支えられたこと…あれから数年経ったが、この場に戻ってくると当時の感覚が変わらず蘇ってくる。あの時と比べると自分自身で良くなかった原因を探ったり、どうしたらいいかを考えられるようにはなったと思うが、今回初めて気付かされた点も少なくない。同じ場に立ったからこそ、今まで見えなかったものが見えやすくなり、良い刺激を与えてもらえたと思う。また、チームのみんなで意見を持ち寄り、相談するという機会を重ねることで、時間をかけて丁寧に授業を考えることの大切さを改めて実感できたことも、この実習に参加できて良かったと思う点である。

#### **3.2 今後の課題**

自分の授業についても、TA の仕事についても言えることだが、相手が求めているものを知り、適切な場面で適切な形で提供できるようになることが今後の大きな課題である。あえて（そのままの形では）提供しないほうが望ましいという選択肢も含めて、対応できるよう努力していきたい。そのために、自分自身の勉強を重ねることはもちろん、1 回ごとの授業や打ち合わせを大切にするという基本の意識を持ち続ける必要があるだろう。

## **タイトル 2009 年度春季教育実習 TA を終えて**

### **—TA の役割と課題—**

日本語文化専攻日本語教育学講座 田中典子

#### **1. 春季実習とは**

##### **1.1 はじめに**

本レポートでは、春季実習の TA (Teaching Assistant、以下 TA) について、その役割を考えながら、今年度の実践について振り返りを行いたい。

## 1.2 位置づけ

名古屋大学国際言語文化研究科日本語文化専攻の実習プログラムは、春季実習と夏季実習の2つで構成されている。春季実習は夏季実習に向かうための、第一段階でもある。夏季実習では実習生は学習者の募集、ニーズ分析、レベル判定、クラス分け、シラバス設計から実際の授業までの一切を実習生のみで執り行う。これに対して、春季実習では、コース自体の運営は任されず、実習生は実際の授業に集中し、あとは他者の授業（自分以外の実習生やTA）に参与観察することで様々な授業のあり方を学ぶ。

## 1.3 実習構成員

春季実習ではTA・実習生の組み合わせでいくつかのグループが作られる。今回はTAが4名、実習生が7名であったため、グループは4つ構成された。9日間の実習で、各グループは2日間を担当し、割り振られた会話の機能シラバスについて一日当たり、3コマの授業を担当した。

## 2. TAの役割

### 2.1 TAの活動の区分け

春季実習でのTAの役割は、実習生を中心に見ると、実習前段階、実習段階、実習後の3つに分けられる。筆者が特に重きをおいているのは実習前段階であり、これは全体と個との二つから成ると考えられる。つまり、実習生が授業を行うにあたって、a)夏季実習で行うような全体の視点を取り入れての授業プランができるように誘導・補助すること、b)個々の授業において、到達目標を明確にして実習生が何を考えるべきか、授業計画を実際に立てる上での枠組みを協働で立てることであること、の2点である。実習段階は参与観察、実習後は実習生の授業に対するフィードバックを行うことである。

### 2.2 全体と個

#### 2.2.1 TAの実習前段階での役割 a

実習前段階の a)については、以下のような考えからこれを挙げた。経験のない教師は、自分の授業（担当）をあまりに独立させて考えすぎてしまい、既習項目を使わない（あるいは使えない）、その表現形式を学ぶことによって何ができるようになればよいのかという視点の欠如から、自分の授業のタスクを形式訓練のみに集中しがちである。そのような方向へ陥らないように、TAはコース全体の視点を実習生に意識させることが必要になる。筆者の実習生経験からも、実習生は「どうやって授業をするか」の部分には考える時間を割くが、「なんのためにその表現を学ぶのか」を見失いがちである。特に実習が初めての教授経験になる実習生は、学習者の既習項目についてまで見る余裕がないため、TAは全体の構

成を考えた助言をすることが求められる。幸い、本実習は CMJ の課が指定されると同時に、機能シラバスが設定されているため、文法の復習という意識が強い実習から、より自由度の高い、実際の場面に則した授業が構成しやすくなっている。

### 2.2.2 TA の実習前段階での役割 b

それでは、次に b) について説明したい。シラバスが提示された段階で、各実習グループは話す機能の中で、何を目標にすればいいのか、が明確になっている。そこから具体的な授業を構成するために、TA はその「機能」について、実習生と具体的に掘り下げるための協働作業をする。まず、学習者のニーズ分析を行う。留学生センターで学ぶ春季受講生の学習者の属性は年ごとに大きく変わるということはない。TA が TA である所以は、過去の実習経験から、実習生よりも学習者についての知識が豊富であるため、学習者のニーズについて助言ができることである。実際の大学生活の中で、学習者がどのような場面に遭遇するか、日本語を使うのはどのような場面か、どの程度まで日本語で言うことが要求されているのか（これは所属専攻によっても大きく異なる）などの情報が提供できる。

また、学習者レベルの把握についてもある程度の推測が可能のため、実習生の教案立案において、実習生の立てた教案の指示が学習者に理解されるかなどの判断ができる。このような予測により、実習生の教案の軌道修正を行える。もちろん、すべて予測できるわけではないし、必要以上の修正は実習生の思考の芽を摘むことになるので、自分の中でガイドラインの設定が必要である。

## 3. 反省点と今後の課題

今回の TA では、授業構成の検討を、2 日の授業について、それぞれ最低 3 回は行ったが、教案の最終版まで見届けられなかったものもある。TA の言うことが絶対ではないということ、自身でも機能分析ができなければ、授業の活動を広げられないし、説明のことばもとっさには出てこないという考えから、自分では 2、3 のアイデアを提示したのみに留めたつもりがうまく伝わっていなかったものもある。

また、鷺見幸美先生にフィードバックを受けたときに、自分達では精一杯の工夫をしたつもりが、まだ工夫の余地があったこと、そこまで考えが及ばなかったことに気づかされた。実習生に機能分析をしなさいと言っておきながら、自身もまた、分析が不足していたのである。アイデアを出すためのヒント、考えるヒントを出すには自分の発想の訓練もまたこれからの課題である。

TA は実習生の成長を助け、あるときは見守ることに徹する存在である。そのバランスのとり方は、人により、また場合により様々であろうが、協働作業を通してお互いに学ぶべ

きものがあることが春季実習を実習生と TA で行う意義でもある。一つのコースを複数の人間で構成し、大きな到達目標に向かうプログラムを成し終えたことで、次に控える夏季実習や今後の教授経験の糧になろうことを信じたい。

## 日本語教育実習における実践とサポート

日本語文化専攻日本語教育学講座 大和祐子

### 1. 実習における実践について

#### 1.1 実践を通して得た「振り返り」による気づき

日本語教育実習に参加させていただいたのは、実習生として参加させていただいた他に、TA としては今回が 3 度目である。この実習で日本語の授業をさせていただく他に、普段は仕事として日本語教育に携わっているが、この教育実習での授業の場は、自分の授業に対して、年に 1 度振り返りを行う場になっているように思う。実習生として初めて教壇に立った数年前と比較して、TA をさせていただくようになって、教室の中で起こっていることが、比較的冷静に、こちらが予期していなかったことに関しても、あまり大きく動揺せずに対応できるようになったと思う。

しかし逆に、実習生として過剰なほどの緊張感を持って 45 分の実習をさせていただいたときに比べて、1 回の授業に対してじっくりと、そしてどれだけ学習者のさまざまな反応を想定して、きめ細かく授業計画を練っているだろうか、とはっとすることもある。そのような意味で、この実習で多くの実習生を前に実践させていただくということは、「日本語教師」としての自分自身の軌道修正のきっかけを得ていることにつながっている。

#### 1.2 教育実習の実践によって新たに学ぶこと

教育実習は、前述のように私にとって「振り返り」を行う場所である以外に、ここで新たに学び、今後の日本語の授業でのヒントを得る場でもある。教育実習は、日本語の授業をするという点で、私にとっては「いつもの授業」と大きな意味では共通していると感じる点が多い。しかしながら、この 2 週間の教育実習特有の、ここで新たに学ばなければならないこともあるように思う。私をもっともそれを感じるのは、この教育実習が通常の授業より短期間で、さらに学習者のバックグラウンドを十分に把握できない状況で教壇に立たなければならないときである。言い換えれば、実習そのものが、通常の日本語の授業での、コースの初日であるかのような、難しさがある。1 回限りの授業ではないにしろ、そ

れに近い状態でありながらも、学習者を授業に引き込んでいくような雰囲気作りが必要になる。これは、教育実習ならではの難しさであるといつも感じる。教室で、瞬時にそれぞれの学習者の個性やできること、できないことを知り、それを生かして授業を行うことは、実習以外の場ではあまり経験することができず、今でも慣れない点の1つである。導入1つをとってみても、何度も教壇に立ったことのあるクラスでは、教師である私と学習者、また学習者間で共通の認識があつて、どんなことを話題にすれば、クラスの学習へのモチベーションがあがるのか、準備段階である程度予想できる。しかし、教育実習では、それを準備段階では「想像」することしかできないが、恥ずかしながら私の「想像」は実践してみても、必ずしも上手くいくとは限らず、授業の中で困ってしまうことも少なくない。

しかし考えようによっては、この教育実習の場合のように、学習者情報が十分でない状態で学習者のモチベーションを高め、雰囲気作りを行わなければならない、ということは、日本語のコースの初日にはよく起こることであるとも言える。今後、私が日本語教師を続けていければ、何度も遭遇する場面なのかもしれない。今回の実習において、特に初回の担当の授業の雰囲気作りがうまくいったのか、ということ必ずしもそうではなかっただろう。なぜうまくいかなかったのか、どうすれば初めて会った学習者の特徴をつかみ、モチベーションをあげることができるのか、今一度反省し、試行錯誤していくことになるだろう。

## **2. TAとしての実習生へのサポートについて**

### **2.1 実習生から学ぶこと**

私がTAとして実習に関わらせていただいて感じたことの1つは、実習生のサポートを通して、実習生から得る学びの多さである。実習生の中には教師経験者やそうでない人さまざまであるが、私の場合は少なくとも、実習生から多くのことを学ばせてもらっている。授業での活動のアイデアやクラスでのふるまい方など、私の中でいつの間にか常識になっていて、他の方法やアイデアを模索することもなくなったことでも、実習生の持つアイデアによって、1つの項目を教えようとしても、いろいろな方法があることを再認識させられる。仮にそれが実践の場で失敗に終わってしまったとしても、いつもの授業でつい無難な活動ばかりで授業を構成してしまうことが多い私にとって、その実習生の授業への姿勢そのものが考えさせられるものである。

### **2.2 TAとしてのサポートの在り方**

TAをさせていただくにあたり、日本語の授業に対して、私とは違う見方で授業へ取り組む実習生に、どのようなサポートをすべきか、ということは重要なことであると思う。TAとして、チームで予定している学習項目をうまくこなさなければ、という責任感のような



ものと、TA だからと口を出しすぎることは避けたいという気持ちとのバランスのとり方は、今回の実習でも自分自身上手くできたとは言えず、今後への課題としたい点である。実習生に、どこまで実践を通して学んでいってもらうものなのか、どこまで事前に想定できる問題をアドバイスしておくべきものなのか、今後さらに考えていく必要があるだろう。